



＜本年度会長方針＞ 夢や希望を語り合おう

地域を育み、大陸をつなぐ

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 岩崎 征一 事務局 名古屋市中央区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 松本 哲朗 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org

<2010-2011年度 R.I.テーマ>

R.I. 会長 レイ・クリンギンスミス Ray Klingensmith

第1313回例会

雑誌月間

平成23年4月28日(木)
於 名古屋東急ホテル
出席計算数 会員 61名
51名中35名出席
出席率 68・63%
前々回出席率 88・46%

「ロータリーソング」

指揮者 春日井和良
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

愛知県鉄構工業協同組合 青年部アドバイザー 伊藤 涉さん
愛知県鉄構工業協同組合 青年部アドバイザー事務局 村本 豊さん

ピクチャー

名古屋RC 野口 宏さん

ニコソックス

伊藤涉先生、村本豊さんをお迎えして。 岩崎 征一
新沼さん握手できました。回復して欲しいと思っています。

23日(土)はオーケストラをバックに合唱してきました。最高、感激しました。尾上さん、前田さん、日曜日ありがとうございます。 春日井和良

会長挨拶

会長 岩崎 征一



尾上さん、山行例会ありがとうございます。
岩手の小学生へ無事援助物資発送しました。佐藤さんありがとうございます。
丹下さん、ありがとうございます。
場所が荒子観音様の近くの中川区の前田町にあります。インド仏教の権威、前田惠學さんが住職を務める真宗大谷派の寺院であり昭和40年(1965)に建て替えられ、前田利家の「兜」の形にも例えられる合掌型の外観は、それまでの寺院建築のイメージからは逸脱していますが、斬新でありながらも寺院としての落ち着きのある風情を見せてくれます。又、加賀百万石の領土を固めた名君一代目前田利長の菩提寺「国宝瑞龍寺」が富山の、高岡市にあります。その山門とこの荒子に建つ速念寺の正面とはお互いに仲良し向かいっつて建っていることをご知らせし



ます。
設計を担
当した内藤
昌氏は、東
京工業大
学院を卒業
後、しばらく
経ってから
お城の研究
家である

名古屋工業大学の城戸久教授に
請われて名古屋に赴任し、その後、
東工大教授を経て愛知産業大学学
長を務めました。又、織田信長の
築いた、天下の名城、安土城は1
582年、本能寺の変の直後、謎
の出力により焼失するのですが、
この焼失した安土城の天王のかた
ち(地上6階地下1階の山城)を
めぐって何人もの研究者によって
さまざまな復元案が提起される中、
内藤氏は加賀藩お抱え大工の棟
梁・池上家から安土城の図面を発
見し、その復元案を発表しました。
そして今では内藤昌案が代表的な
ものとして挙げられています。

卓話

「東日本大震災 現状」

再生へのランドデザイン
愛知県鉄構工業協同組合
青年部アドバイザー
伊藤 涉さん

(次号以降に掲載します)

地区協議会報告

(4月21日例会)

次年度国際奉仕委員長

加藤巳千彦さん



第5分科会国際奉仕関連(国際
奉仕、世界社会奉仕(WCS)、識
字率向上)の次年度のテーマは、
「世界の夢の実現 国際理解、親善、
平和の推進」であります。

今年度、社会奉仕活動として進
めてきているグローバル補助金を
活用したパイロット地区での6つの
分野 ①平和と紛争防止/紛争
解決 ②疾病予防と治療 ③水と
衛生設備 ④母子の健康 ⑤基本
的教養と識字率向上 ⑥経済と地
域社会の発展 の奉仕活動が次年
度から国際奉仕の分野として組み
込まれており、当クラブにおいて
も次年度の柱となる事業と捉えて
おります。

ところが、先月11日に発生した
東日本大震災による被災への義捐
金に、次年度に限り、グローバル
補助金を全額充てることとした旨
の報告がなされました。

従いまして、今年度計画し、次年度実施する予定を進めておりました。グローバル補助金を活用したタイのチェンマイでの国際奉仕活動は出来なくなりました。

次年度に実施すべくタイのチェンマイロータリークラブをはじめとした関係各位に今回の状況を説明しご理解をいただかなくてはならないと思っております。

世界社会奉仕(World Community Service)は、2011年の月30日をもち、ロータリー・ボランティア・プログラムとともに終了することがRー理事会で決まっております。

廃止の理由としては、Rー長期計画の優先項目、並びにプログラムを基本としたモデルからリンクとサポートのモデルへのRープログラム運営の全般的転換の必要性によるものとされております。

これは過去、各クラブが国際奉仕をWCSを利用して、プロジェクトリンクから選んで、海外クラブに連絡を取り、資金や品物の提供を行い、一般的には一度の現地視察をして完了するというパターンが多かったようですが、それらの活動の結果、本当に末端まで資金や品物が行届くような奉仕活動がされているかどうか、事業の健全性への確認までが出来ないケースが多くあったことも今回の廃止の理由にあるようにです。

今後は、ロータリー友情交換プログラムを拡張する方向をRーは推奨しておりますが、相手クラブとの友情が出来、交際を重ねる中で、信頼関係が生まれ、金銭などを介在した事業に発展するような国際奉仕プロジェクトのあり方を目指していると思えます。

次に識字率向上につきましては1980年以來、Rーの強調事項で、現在3月を識字率向上月間と定め、この機会に、ロータリアンは識字の問題を再認識し、各クラブや地区は識字率向上に関する認識を高めたり、世界的に非識字を撲滅しようとするロータリアンの努力に対する認識を向上させることを求めています。

当クラブにおいても、来年3月の識字率向上月間には、この地区の識字率向上委員会の方に例会においでいただき、卓話をお願いできればと考えております。

最後に、国際奉仕としては、次年度の柱と捉えておりましたグローバル補助金を活用したタイのチェンマイでの奉仕活動が出来なくなつたことは大変残念であります。次々年度に繋がる国際奉仕活動の基盤を創り上げてゆきたいと考えております。

次年度新世代奉仕委員長

渡辺 観永さん

新世代奉仕委員会はこの数年で



大きく組織改変された委員会の一つです。内容は、14歳から30歳にわたる新世代のための活動です。インターアクト、ロータリーアクト、RYLA、青少年交換そして危機管理において、行動がなされております。

名古屋大須ロータリークラブからは、危機管理にRー日本青少年交換委員会理事として神田憲さん、2760地区青少年交換委員として高木政義さん、そして私が出席させていただき、委員会別、テーブルごとのフリンストーミングに参加させていただきました。

名古屋大須としては、長年青少年交換してきた実績がある一方、他の活動に関しては、関わっており、今ひとつ温度差を感じました。しかしながら、課題ほどの委員会も同じで、会員数の減少が問題とされていきました。

これは昨今の景気動静、また多くのNGOなどが成立してきている社会的背景も少なくないのではないのでしょうか。

青少年交換としても、昨今は、学校が斡旋する長期留学、自費留学を扱う会社など、多くの団体があり、ロータリーの親善交換としての留学は制約が多すぎるばかりで敬遠される傾向が少なくないとの意見がありました。

一方で、受け入れるこちらの側としても、学校生活の中で交流ができるだろう、ホストファミリーで日本の生活を学べるだろう、などのなにかなるだろう的な姿勢が昨今多く見られ、本人の留学そのものを無目的な状態にしてしまっていることが意見として出てきました。

そこで出てきた意見としては次の通りです。

1. 地区での集約的日本研修(日本語・日本文化)を行う
 2. ホストクラブとサポートクラブ複数で留学生を受け入れる 地区内交換・交流
 3. 留学生を年間通じて受け入れられなくとも、1ヶ月単位で受け入れられるようにする
 4. 受け入れ学校側に地区としてメリットとなるべきイベントを創設
 5. 北海道など他地区との国内交換
- ただし、東日本大震災を契機として、交換留学生のプログラムにも大きな影響がでています。本年度の月の段階で2760地区に滞

在していた留学生の名は、それぞれの国の指導があつて3月21日までに全員が帰国。次年度も日本を希望する留学生がいるかどうかは不明です。

しかし地区としては交換留学に對しては期待を失っていません。また今後の情勢において、次のような形もあり得るとの示唆を受けました。

1. 東北地方で留学希望があつた場合、その受け入れを他地区で実施する

いすれにしても、私どものクラブでは、交換留学への参加を次年度模索した上で、新世代との語らいつの場を作つていきたいと考えています。

5月19日(木)例会の案内

卓話

「市民文化活動による

まちづくり」

(株)エリイ創道研究所

取締役 川本 直義さん

紹介者 柴崎 正博さん

広報委員会

近藤 明美・前田 隆久

近藤 宏一郎・杉浦 令淑

*本文は、原則、頂いた

原稿を転載しています。